

エリスのモデルがギリシャ神話の「Eris」である可能性について

<目次>

- ①はじめに
- ②本論
- ③まとめ
- ④参考文献

① はじめに

エリスはなぜ「エリス」という名前だったのだろうか。

主人公の恋人という重要なポジションを担う人物の名には何らかの意味づけがされているのではないかと考え、このようなテーマ決定をした。

エリスの名前の由来として『asahi.com』によると、次のような説がある。

《エリスにはモデルが実在し、そのモデルは森鷗外（本名：林太郎）が自身の留学中に恋人としたドイツ人女性にほかならず、その女性の名は「エリーゼ・ワイゲルト」であることが突き止められていた。》

この説と舞姫を照らし合わせてみると、エリスの父親の名は豊太郎が発見した「エルストン・ワイゲルト」であることから、エリスの名は「エリス・ワイゲルト」であることが分かる。「エリス・ワイゲルト」と「エリーゼ・ワイゲルト」の二人の名前がファミリーネームは一致し、ファーストネームも酷似していることから、このドイツ人女性がモデルとなったという説は有力ではあるが、今回はあえてギリシャ神話に登場する「Eris」がエリスのモデルになったのではないかと考え、そしてその可能性について考えることにした。

② 本論

ここでは、Eris がエリスのモデルになったという説について

〔Ⅰ〕 Eris とエリスの特徴における共通点

〔Ⅱ〕 Eris とエリスのそれぞれの両親の特徴における共通点

この二点の共通点に分けて説明する。

〔Ⅰ〕 Eris とエリスの特徴における共通点

Eris とエリスの特徴には共通点が存在する。

まず Eris の特徴を挙げておく。Eris はギリシャ神話に登場する紙の一員で「不和」「争い」の女神である。Eris は不和を司るという特徴をもつ。

この点で、Eris とエリスは共通点を持つ。

エリスと豊太郎の関係は、初めはお互い愛し合っていたようだが、結局は結ばれることなく話は終わってしまった。確かに豊太郎の行いが原因で二人は別れることなく終わったわけだが、愛し合っていた二人が分かれる結末に至った。話の大まかの流

れとして二人は結ばれることはなく終わり「不和」という言葉の特徴として与えることができ、この点においてエリスと **Eris** は「不和」という共通点を持つといえよう。

[II] **Eris** とエリスのそれぞれの両親の特徴における共通点

それぞれの両親の特徴にも共通点があることが言える。

まず父親である。

Eris の父親はギリシャ神話の神の一員であるゼウスであり、「家庭の守護神」である。一方エリス父親は、話に登場した時にはすでに亡くなっていたが、生前は男気ある父親でエリスを庇護していて貧しい彼女のような身分の者が卑しい仕事に身を落とさずに済んでいたのもそんな父がいたからである、という父親像で描かれている。彼がいたからこそエリスは守られていたのだ。しかし、父親が亡くなってからは母親にそのような仕事をすることを命じられ、拒否すれば殴られるという生活を送っていた。エリスの父親はエリスを庇護し、家庭を守っていたのだ。

この点は、ゼウス「家庭の守護神」という特徴と同様の特徴を持ち、**Eris** とエリス「家庭を守る」という共通点を持つと言える

続いて母親だが、母親においても共通点を持つ。

Eris の母親もギリシャ神話の神の一員であるヘラで、「女性、妻、妊婦の守護神」である。

エリスの母は、最終的に精神的に死んでしまったと二人でドイツに残される様子が描かれている。この後、豊太郎は日本に帰ってしまったため、エリスの母がエリスの世話を生計で生きていくことになるだろう。エリスの母はパラノイアになってしまった妊婦であるエリスを世話を生計でしていくのだ。この点は **Eris** の母ヘラの持つ「妊婦の守護神」という特徴と一致し、**Eris** とエリスの母は共通点「妊婦の守護神」という共通点を持つと言える。

ただ、ヘラは「女性、妻、妊婦の守護神」ではあるが、エリスの母親はエリスに卑しい仕事することを命じ、拒否すれば殴ることをしていた。これは「女性の守護神」という特徴と矛盾するように思える。しかし、エリスの母親がこのような行為をしていた時は、エリスが十六、七歳以下の時である。十六、七歳の自分の娘のことは女性とみなすだろうか。ほばないであろう。自分の子供は子供であり女性ではないのである。しかし、エリスが身籠ったことで娘を妊婦かつ女性で見るようになったと考えればこの矛盾は解消される。

以上[I][II]より、**Eris** とエリスの間には複数の共通点が見られる。

Eris とエリスの特徴だけでなく、その両親の特徴までが見事に一致していたことから、**Eris** がモデルとなっているという可能性は十分にあると言える。

③ まとめ

Eris とエリスの名前が一致していること

Eris とエリスの特徴の一致

両親の特徴の一致

以上の一致や共通点から、**Eris** がエリスのモデルとなったと考えるても矛盾や食い違点が発生しない。よって可能性は十分にあると考える。

だが、なぜギリシャ神話をモデルとして用いたのか、という疑問が残る。

今回はギリシャ神話をモデルにする必要性や目的が今回見出すことができなかった。エリスの父親が「エルンスト・ワイゲルト」と明記されているなど、ギリシャ神話をモデルにしたとしては人物名が徹底されていないし、またギリシャ神話をモデルとしたなら、より多くの根拠を見つけ出せるはずであるが、今回示した根拠だけでは決定的な根拠とはなっていない。

モデルにしたにしては中途半端なのである。

完全に一からモデルにしたと決め付けることは難しい。

よって、結論は以下である。

Eris がエリスのモデルとなったと考えるても矛盾が生まれないことから可能性は十分にあると考える。しかし、**Eris** をモデルにした目的や必要性を明確でないので今回示した根拠からは、一から完全にモデルとなったとは100%断言することはできない。

④ 参考文献

ホームページ : 『asahi.com』 2007 年 03 月 03 日

ー森鷗外と「エリス」～ドイツ・ベルリン～

『テオポリス～ギリシア神話データベース&西洋絵画紹介～』

ーエリス、ヘラ、ゼウス